

第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	林亮輔ゼミ	チーム名	亮ちゃんがーるず♡
タイトル	Make up impression!!!!		
テーマ群	g) その他		
メンバー	石谷春乃 栗原瞳 佐野愛海 矢野来実		
研究計画内容	<p>[研究背景]</p> <p>班全員が女子で化粧を日常的に行っているが、それぞれが化粧に対する意識が違うことから、化粧に関する研究を行いたいと考えた。そこで化粧に関する論文を読み進めると、“認知と行動に不一致が生じている人の心理的不健康の可能性が示され、それらの人々に対する、化粧介入の可能性が示唆された”という考察が記載されていた。ここでの「認知」とは化粧を行うことへの意識、「行動」とは化粧を行うこと（以下「認知」を「意識」と表記）、「心理的不健康」とは化粧をしたくないのにも関わらず周囲に合わせて化粧をすることからくるストレスを示す）そのため、今回化粧と心理的健康の関係性について、また自己肯定感などへの影響について研究したいと思ったことが、着想に至った経緯である。先行研究では初めに基準となる「高高(意識高・行動高)の人」と、「低低(意識低・行動低)の人」「高低(意識高・行動低)の人」「低高(意識低・行動高)の人」を比較した3パターンの間には、心理的健康に差があると仮説を立てた。(意識高：化粧自体をポジティブにとらえる、意識低：化粧自体をネガティブにとらえる、行動高：化粧行動は積極的に行っている、行動低：化粧行動はあまりとらない人) 結果として「高高」と「低高」の間に差があり、「低高」は心理的不健康であると考察された。これらを改善するために、私たちは「低高」を「高高」にし、化粧意識の向上を図る。また「高高」と、意識と行動が不一致である「高低」にも焦点を当てる。</p> <p>[研究内容]</p> <p>本研究では、甲南大学生を対象にメイクを行う頻度やきっかけ、何が意識高に繋がるのか(化粧を行う際に影響した媒体や化粧後の自分を褒めて貰えた経験がある等)を中心にアンケート調査を通じて分析する。</p> <p>[研究の独自性]</p> <p>甲南大学生を対象にアンケートをとることと「低高」の人の背後にある心理状況の分析をする。</p> <p>[期待される効果]</p> <p>研究背景で示した化粧意識の向上などにより、皆が前向きに化粧をすることが出来るようになる。</p> <p>[参考文献]</p> <p>加藤孝央、石原俊一、大木桃代「女子大学生における化粧認知及び行動と心理的健康の関連性」(『生活科学研究』、第32巻、2010、81-89頁)</p> <p>松本友里「化粧行動に対する意識」(『東京女子大学心理学紀要』、第1巻、2005年、26-36項)</p>		